

学校教育目標 「自ら学び 心豊かに たくましく生きる児童の育成」



学校だより え の き

10月1日号



皆野町立皆野小学校 令和8年10月1日 発行

「しあわせのバケツ」

校長 吉田 浩

9月の校長講話で『しあわせのバケツ』（キャロル・マッククラウド作）という絵本を子どもたちに紹介しました。世界中のどんな人も、心に『しあわせのバケツ』を持っていて、そのバケツは、人が喜ぶことをすると一杯になり、逆に嫌がることをすると空になってしまいます。人同士が思いやり、親切にすれば、みんなが幸せになれることを、バケツに例えて優しく説いた絵本です。

子どもたちに、「思いやり、親切、笑顔、励まし、賞賛、感謝などの言葉や行動は、相手の『しあわせのバケツ』をいっぱいにするだけでなく、それに伴って自分の『しあわせのバケツ』もいっぱいになることを意識してほしい」ということを願って紹介しました。

この絵本の中では、バケツをいっぱいにする言動として、

好きな気持ちを伝えたり、親切にしてあげたり、微笑みかけてあげたり…

「ありがとう。」と言ったり「遊ぼう。」で誘ったり「一緒にいると楽しいね。」と言ったり…
といったことが紹介され、逆にバケツを空っぽにしてしまうのは、

相手を馬鹿にしたり 意地悪をしたり、悪口を言ったり、無視したり…

「いじめ」や「相手を傷つけること」も、バケツを空っぽにするとあります。

この絵本を読むと「人を幸せにすると自分も幸せになり、人を傷つけると自分も傷つく」ということに改めて気づかされます。「ふわふわ言葉」は心を温め、「ちくちく言葉」は心を冷たくするということにつながります。

子どもたちだけでなく、大人もこの『しあわせのバケツ』を忘れがちではないでしょうか。自分のバケツが空っぽであっても気付かなかったり、他の人のバケツがいっぱいかどうかということにすら注意を払わなくなってしまうたりすることもあります。子どもたちだけでなく、周りの大人や地域の皆さんも一緒になって、みんなの『しあわせのバケツ』がいっぱいになるよう声をかけ合っていきましょう。



「しあわせのバケツ」イラスト Gemini 作